

**第5回厚生科学審議会感染症部会
薬剤耐性（AMR）に関する小委員会
議事概要**

- 1 審議開始日：令和4年10月3日（月）
- 2 議 決 日：令和4年10月3日（月）
- 3 方 法：持ち回りによる。
- 4 議 題：
 - （1）薬剤耐性（AMR）対策アクションプランについて
 - 医療者、一般市民へのさらなる普及啓発が必要
 - JANIS を国内の実態把握として信頼できるデータにするには、200床未満の医療機関の参加を促し、より多くの医療機関の参加したデータが必要
 - 病院が介護施設等における感染対策や患者の治療において、助言、支援ができるような仕組みをネットワークで共有できるよう、地域における医療・介護の連携を行政が橋渡しする役割は重要
 - 包括的な抗微生物薬適正使用（AMS）プログラムの策定、ならびにAMSに準拠したAST活動の推進（ICTとの連携強化）、各施設のAST担当者の立場の強化、さらなる行政的支援が必要
 - 1期アクションプランとして設定していた抗菌薬の使用量削減については目標がほぼ達成できたが、耐性菌の減少には残念ながらつなげておらず、医療現場の使用量の制限だけでは目的達成は難しいと考えられる。カルバペネム耐性菌の増加は幸いにも起こっていないが、継続した適正使用とともに新たな対策につながるような研究開発の推進が必要
 - アジア版 AMR サーベイランスの推進が必要